

イズモコバイモの調査、保護活動について

私たち島根自然保護協会(以下、協会)では、イズモコバイモ(写真1)の調査を継続的に実施してきた。(イズモコバイモの詳細は、機関誌「自然と環境」第58号『2017.3月発刊』を参照)



写真1 イズモコバイモ



写真2 自生地(大江高山の裾野)

島根県の固有種で絶滅危惧種 I 類(CR-EN)に指定されているイズモコバイモは、出雲市佐田町から大田市祖式町の大江高山を経て邑智郡川本町谷戸にかけて点々と自生又は民家の裏山などに植栽されている。

私たち協会では、大江高山の谷間約 500 m²に自生していて一般には知られていないイズモコバイモの自生地(写真2)を 2001(平成 13)年から、調査と保護活動を続けて来た。

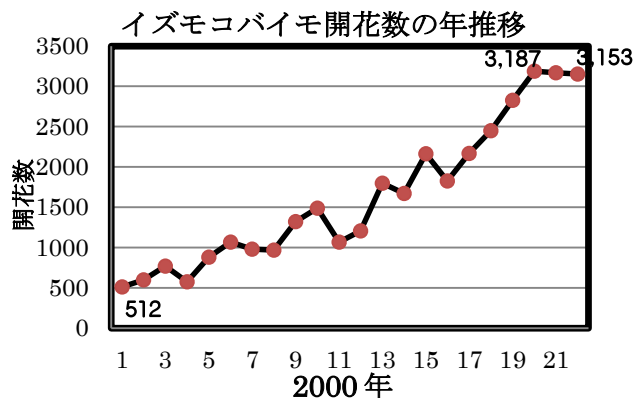
調査と保護活動の主担当は、スタッフの原 志男、それに適宜岩谷由美子、藤原洋之、藤原政明、藤原薫代、原 誠道、廣江百合子、青木充之らが加わる(写真3)。

写真3 保護活動スタッフ→



調査は、毎年 3 月上旬の開花時期から 4 月上旬のこれ以上開花がない時期まで続け、前年の竹札は抜き、開花地点に番号付きの新しい竹札を立て、地図にスポットし開花日と開花本数を丹念に記録し続けた(写真4、5、6)。2001 年から 2017 年までの 17 年間の開花本数の推移は、別表 1 及びグラフ 1 の通りである。経年経過としては、年によっ

て増減はあるものの全体として増加傾向を示していることが明瞭である。また、これらのデータを安田 晃は統計的に処理して、開花と気温の傾向を論じている(機関誌「自然と環境」第 56 号)。



この自生地にイズモコバイモがあることを知った 2000 年には、数本の開花を見るにとどまっていたが、その年の秋から除草を開始し丈の高い草を除去(写真 8)したことによって早春に発芽するイズモコバイモが増え、2001 年には開花数が 512 本になった。この様にイズモコバイモが繁殖するには、礫を適度に含み廃水が良い斜面であって、草で被われないことが最低条件である。従って、イズモコバイモの自生には、除草による人的保護が大きな比重を占めていると言っても過言ではない。協会では、地元の有志数名と共同して毎年この自生地の草刈りを続けており、今後もこのような調査、保護保全活動を継続してまいりたいと考えている。



草刈り作業 129.7.9(土)左から原 志男、藤原洋之、谷口松子、谷口進、深見和年、森本毅 (写真撮影：青木亮之)